



2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年11月9日

上場会社名 株式会社 アテクト 上場取引所 東
 コード番号 4241 URL <http://www.atect.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小高 得央
 問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務部次長 (氏名) 菅原 偉夫 (TEL) 0748-20-3400
 四半期報告書提出予定日 2018年11月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績(2018年4月1日~2018年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	1,446	6.7	137	48.4	128	73.8	95	103.9
2018年3月期第2四半期	1,355	10.9	92	△2.6	73	33.3	46	37.6

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 102百万円(192.3%) 2018年3月期第2四半期 35百万円(870.7%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2019年3月期第2四半期	22	03	21	71
2018年3月期第2四半期	10	90	10	67

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	5,414		1,621		29.0	
2018年3月期	5,877		1,556		25.6	

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 1,568百万円 2018年3月期 1,506百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2018年3月期	—	0.00	—	10.00	—	10.00
2019年3月期	—	0.00	—	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	—	—	10.00	—	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日~2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	2,800	4.9	230	43.3	200	82.8	120	45.4	27	67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期2Q	4,356,600株	2018年3月期	4,352,600株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	15,559株	2018年3月期	15,499株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期2Q	4,340,607株	2018年3月期2Q	4,303,518株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・当社は、2018年11月13日に投資家向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料は、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間を含む2021年度3月期までの3年間で売上高30億円、営業利益3億円（営業利益率10%）以上を最低必達目標とし、経営体制を一新、経営改革を推進しております。新工場建設に伴う大型投資を早急に回収する為、EBITDA（営業利益+減価償却費）の最大化と投資抑制を実行しております。

当第2四半期連結会計期間における具体的な活動は以下の通りです。

1. P I M事業：材料販売の再開と新規部品販売による過去最高の売上高・営業利益の実現
2. P I M事業：2021年以降の拡大3大アイテム（ターボ部品・セラミックスボール・セラミックス放熱板）の商品化加速
3. 衛生検査器材事業：成熟市場に入った本ビジネスにおいて、永続的プラス成長実現可能な営業体制の確立
4. 半導体資材事業：旺盛な需要に対応可能な更なる増産体制による大幅な増収増益
5. 全社共通として徹底した経費節減と投資の抑制

当第2四半期連結累計期間における上記活動は概ね順調に進捗しております。中でも半導体資材事業は想定を上回る売上高となり、グループ連結売上総利益額は2006年3月期の上場以来、過去最高の688百万円（売上総利益率47.6%）となりました。また、P I M事業においては直動型ベアリング部品の正式受注の獲得と材料販売の大口顧客との契約を締結し、第3四半期連結会計期間以降、大きく伸長する見込みです。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,446百万円（前年同期比6.7%増）、営業利益137百万円（前年同期比48.4%増）、経常利益128百万円（前年同期比73.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は95百万円（前年同期比103.9%増）となりました。

セグメントの概況は次の通りであります。

なお、セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

① P I M(パウダー・インジェクション・モールドィング)事業

P I M事業においてはここ数年、設備及び人員等の制約からガソリンターボエンジン用ノズルベーン（Variable Geometry：VGターボ）、セラミックスボール、電動車用セラミックス放熱板（窒化ケイ素）の3大アイテムの商品開発と新工場立ち上げに特化して参りました。新工場に増設した全設備の立ち上げ及び各部門の人員補強が完了したことから、将来、上記3大アイテムと競合しない先への材料及び高付加価値機構部品のマーケティング、受注活動を本格的にスタートしました。その結果、世界中で逼迫している直動型ベアリング（THK株式会社向け、LMガイド）部品の5アイテムを正式受注し、生産を開始しました。また、材料販売においても大口顧客（ウエアラブルデバイスの焼結体部品製造に使われるチタン合金用材料）の受注を獲得し、その他の材料及び部品販売の受注活動も堅調であることから当連結会計年度における売上高・営業利益は過去最高となる見込みです。

これらの部品及び材料販売で2021年度3月期までに3大アイテムを加味しない売上高で3億円以上を最低必達目標とし、製造販売一体の拡大販売体制を構築して参ります。

一方、上述の3大アイテムにおいては、引き合いのある顧客との連携をより一層強化し、これまで以上に技術開発のスピードを加速させて参ります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は42百万円（前年同期比3.9%減）、営業利益12百万円（前年同期比48.0%増）となりました。

② 衛生検査器材事業

衛生検査器材事業においてはここ数年、安定した売上、利益を堅持しておりますが国内の食品衛生業界は「成熟市場」に入ったことから、当社グループの成長もやや鈍化しております。そのような中、新設した営業戦略企画部とITシステム部門が連携し、安定継続顧客の堅持（失注の防止）・受注が途切れていた顧客の復活・新規顧客獲得の3つの視点から、営業企画チーム、テレマーケティングスタッフの機能、役割を細分化し新たな活動を展開中です。9月に発生した関西台風と北海道地震の影響により、同地区の販売が著しく低下したことから、売上高は前年割れとなりましたが上記施策は確実に奏功しております。尚、10月度の同地区の売上げは例年並みに回復しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は770百万円（前年同期比2.2%減）、営業利益37百万円（前年同期比22.2%減）となりました。

③ 半導体資材事業

2018年3月期の半導体資材事業は出荷数量で26.1%増、売上高で30.9%増と大きく伸張しました。当連結会計年度においても当第2四半期連結累計期間の累計出荷数量は21.9%増と更に伸長し、日韓合計の月産生産能力650万m（前期平均570万m）を大幅に上回る700万mを越える受注が5ヶ月連続で続いています。世界No.1のスペーサーテープメーカーとして、当社グループスペーサーテープを2.6倍消費する4Kテレビ及び一部採用が開始されたスマートフォンやICカード、医療用デバイス向け対応も含め、もう一段の能力増強を早急に進めて参ります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は633百万円（前年同期比20.1%増）、営業利益87百万円（前年同期比143.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は、前連結会計年度末に比べ7.9%減の5,414百万円となりました。

これは、「受取手形及び売掛金」が50百万円増加する一方、「現金及び預金」が468百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べ12.2%減の3,792百万円となりました。

これは、「短期借入金」が110百万円、「1年内返済予定の長期借入金」が42百万円、「設備関係支払手形」が256百万円、「長期借入金」が110百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ4.2%増の1,621百万円となりました。

これは、「利益剰余金」が52百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年5月11日発表の通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	890,356	422,169
受取手形及び売掛金	397,820	448,449
商品及び製品	176,772	160,371
仕掛品	20,765	23,208
原材料及び貯蔵品	228,725	215,632
その他	62,061	29,308
貸倒引当金	△370	△398
流動資産合計	1,776,131	1,298,742
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,031,815	1,035,969
機械装置及び運搬具（純額）	620,951	674,464
土地	1,534,491	1,531,044
建設仮勘定	577,734	561,437
その他	111,047	97,583
有形固定資産合計	3,876,041	3,900,499
無形固定資産		
その他	100,873	89,699
無形固定資産合計	100,873	89,699
投資その他の資産		
投資有価証券	3,700	3,770
繰延税金資産	100,950	101,230
その他	20,873	20,865
貸倒引当金	△791	△791
投資その他の資産合計	124,733	125,074
固定資産合計	4,101,647	4,115,273
資産合計	5,877,779	5,414,016

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	388,488	348,551
短期借入金	290,000	180,000
1年内返済予定の長期借入金	807,233	764,903
リース債務	16,086	12,906
未払金	65,484	73,029
未払法人税等	8,674	31,655
賞与引当金	39,707	48,797
設備関係支払手形	275,493	18,562
その他	57,394	52,033
流動負債合計	1,948,563	1,530,439
固定負債		
長期借入金	2,370,472	2,259,711
繰延税金負債	121	105
その他	2,169	2,260
固定負債合計	2,372,763	2,262,077
負債合計	4,321,326	3,792,516
純資産の部		
株主資本		
資本金	775,841	777,031
資本剰余金	695,841	697,031
利益剰余金	78,326	130,598
自己株式	△7,572	△7,645
株主資本合計	1,542,437	1,597,015
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,646	1,695
為替換算調整勘定	△37,322	△30,100
その他の包括利益累計額合計	△35,675	△28,405
新株予約権	49,691	52,889
純資産合計	1,556,453	1,621,499
負債純資産合計	5,877,779	5,414,016

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	1,355,709	1,446,749
売上原価	695,708	757,918
売上総利益	660,001	688,830
販売費及び一般管理費	567,471	551,487
営業利益	92,530	137,342
営業外収益		
受取利息	167	25
為替差益	-	380
受取賃貸料	984	159
還付金収入	594	3,873
その他	1,902	649
営業外収益合計	3,649	5,087
営業外費用		
支払利息	9,164	9,451
減価償却費	8,862	561
為替差損	3,553	-
その他	754	4,087
営業外費用合計	22,334	14,100
経常利益	73,845	128,329
特別利益		
固定資産売却益	1,999	-
特別利益合計	1,999	-
特別損失		
固定資産売却損	15,172	-
減損損失	-	3,379
その他	0	-
特別損失合計	15,172	3,379
税金等調整前四半期純利益	60,673	124,949
法人税等	13,775	29,306
四半期純利益	46,897	95,642
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	46,897	95,642

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	46,897	95,642
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	332	48
為替換算調整勘定	△12,025	7,221
その他の包括利益合計	△11,693	7,270
四半期包括利益	35,204	102,913
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	35,204	102,913
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

なお、前連結会計年度の連結貸借対照表についても、当該会計基準等を遡って適用し表示しております。